

「互いに愛し合う」

(ローマ13・8〜10)

一、愛だけは借りがあってもかまわない  
8節をご覧ください。〈だれに対して  
も、何の借りもあつてはいけません。た  
だし、互いに愛し合うことは別です。他  
の人を愛する者は、律法の要求を満たし  
ているのです。〉とあります。この聖句  
は、読んだだけでは意味が分からない  
と思います。どんなに上手に翻訳した  
としても、解説がなければ意味が分か  
らないと思います。1文目の強調点は  
〈何の借りもあつてはいけません〉で  
す。〈借り〉とは「負債」のことです。  
8節の元のテキストは「だれもない、な  
いしは何もない」を意味する同じこと  
ば(「メテイス」)が、2回続いて、始ま  
っています。それを正確に訳している  
のは新改訳旧版と新改訳2017です。  
〈だれに対しても、何の〈が〉がそうです。  
〈だれに対しても、何の借りもあつて  
はいけません。〉は、何が語られている  
のでしょうか。良く分からないと思い  
ます。その前の節の7節に、〈すべての  
人に対して義務を果たしなさい〉とあ  
ります。ここに出てくる〈義務(オフエ  
イレー)〉と、8節の〈借り(オフエイロー)〉  
はほぼ同じことばです。どちらも「負債」  
の意味です。そこで7節は、「ローマの

教会の教会員たち。あなたがたはすべ  
ての人に対して負債がある。ゆえに、税  
金と関税を納めるべきである」の意味  
であると、語らせていただきました。

そして8節は〈だれに対しても、何の  
借りもあつてはいけません。ただし、互  
いに愛し合うことは別です〉と語られ  
ています。言い方を変えれば、「互いに  
愛し合うことについては、だれに対し  
ても、借りがあつてもかまわない」とい  
う意味になります。少し分かったよう  
で、ますます意味が分からなくなった  
と思います。「愛だけは借りがあつても  
かまわない」ということです。なぜ愛に  
ついて、私共は借りがあるのでしょ  
うか。それは、他者を愛するといふ義務を  
果たしていないからです。8節の3文  
目に〈他の人を愛する者は、律法の要求  
を満たしているのです。〉とあります。  
これが、神の御意思です。では、私共キ  
リスト者は神の御意思に添って、他の  
人を愛しているでしょうか。いくら愛  
しても、借りが残ります。愛だけは、他  
の人に対して借りがあるわけです。負  
い目があるわけです。負債があるわけ  
です。そういうわけで、〈ただし、互いに  
愛し合うことは別です〉の〈互いに〉  
は、教会の内部における意味ではなく、  
信者でない方も含めての意味になり  
ます。8節3文目で〈他の人を愛する者  
は〉と語っていることから分かりま  
す。

二、「愛」とは「神の愛」である

9節を見てまいります。〈姦淫して  
はならない。殺してはならない。盗んでは  
ならない。隣人のものを欲してはな  
らない〉という戒め、またほかのどんな  
戒めであっても、それらは、「あなたの  
隣人を自分自身のように愛しなさい」と  
いうことばに要約されるからです。と  
あります。なぜパウロは、律法の教えを  
持ち出したのでしょうか。この手紙の  
宛先が、異邦人キリスト者が多く存在  
するローマに興された教会だったから  
です。異邦人キリスト者には、聖書(＝  
旧約聖書)という土台がないので、「愛」  
と聞いても、その概念を理解できな  
かったからです。愛とは何か、それは神の  
愛です。神の愛は、旧約聖書に書かれて  
います。長い歳月の中で、主がイスラエ  
ルを取り扱われた歴史が、聖書にはあ  
るのです。  
ちなみに、9節前半の〈姦淫しては  
ならない。殺してはならない。盗んでは  
ならない。隣人のものを欲してはなら  
ない〉は、律法の要約として、当時の  
ユダヤ人が受け止めていたものです。  
後半でパウロは語っています。〈という  
戒め、またほかのどんな戒めであつて  
も、それらは、「あなたの隣人を自分自  
身のように愛しなさい」ということば  
に要約されるからです。〉と。どんな戒  
めであっても、すなわち旧約聖書に書

かれている律法の戒めであっても、  
〈あなたの隣人を自分自身のように愛  
しなさい〉ということばに要約される  
というのです。逆に言うなら、もし隣人  
を自分自身のように愛しているなら、  
律法の要求を全うし、神の愛に生かさ  
れているというのです(レビ記19・19  
と19・34をご覧ください)。

三、愛に始まり、愛に終える  
10節を見てまいります。〈愛は隣人に  
対して悪を行いません。それゆえ、愛は  
律法の要求を満たすものです。〉とあり  
ます。前半に、〈愛は隣人に対して悪を  
行いません〉とあります。「隣人に対し  
て悪を行わない」とは、どういう意味な  
のでしょうか。直訳は「愛は隣人に悪を  
行わない」です。別の表現で語つたらど  
うなるでしょうか。私だったら、「愛は、  
他者に押し付けない」という意識はど  
うかと思えます。あるいは、「コリント前  
書の13章5節の「(愛は) 礼儀に反する  
ことをせず、自分の利益を求めず、苛立  
たず、人がした悪を心に留め(ない)」  
はいかがでしょうか。  
私共が「これは絶対いいですよ」「こ  
れはあなたに必要です」「是非やってみ  
てください」として、熱心に勧め、相手  
が迷惑しているなら、愛ではないと思  
います。聖司によれば、隣人に対して悪  
を行っていないなら、〈愛は律法の要求  
を満たすものです〉となります。